



神奈川県議会議員

港北区

# 武田 翔

2016  
春特別号

[発行元] 武田翔政務活動事務所 〒222-0011 横浜市港北区菊名1-6-11 平田ビル3階  
TEL 045-947-2712 / FAX 045-947-2713

神奈川県議会議員を拝命してから早いもので一年が経ちました。あらためて振り返りますとさまざまな「生活の現場」をつぶさに学び、議会の一員として行政に携わっていることを何よりも有難く感じております。

県議会では、厚生常任委員会の一員として医療問題や福祉の課題に取り組んで参りました。

昨年、横浜市旭区に重粒子線治療施設が完成しました。体に負担の少ないがん治療施設として十年前に県が計画立案し、ようやく形になりました。今後はいかに県民の皆様役に役立てていくかが課題となります。患者の方が経済的理由で治療を諦めずに済むよう、治療費助成や利子補給などの支援策についての議論を深めて参りました。

福祉では、聾学校や盲学校をはじめ、様々な支援学校へ視察に訪れる機会に恵まれました。いずれの学校も生徒たちは笑顔があふれていました。しかしながら、障がいを抱えた子供たちが、社会に出るから学生時代と同じ笑顔を保ち続けるにはどうしたら良いか。現実課題として、障がいを抱える方には様々なハードルがあることを目の当たりにしました。

これからの初心を忘れることなく、皆様からいただきました信任に応えることができますように、また、面白い話題を提供できるよう頑張ります。

## プロフィール

1981年12月神奈川県生まれ  
横浜市港北区富士塚在住  
家族構成:妻・長男

茅ヶ崎市立松浪小学校  
福岡市立百道中学校  
福岡大学附属大濠高等学校  
カリフォルニア州立大学 卒業

2007年  
参議院議員佐藤正久事務所秘書

2015年4月  
神奈川県議会議員当選

犬の殺処分ゼロを目指す広島県は神石高原町とNPOピースワンコにお邪魔しました。始めに、神石高原町役場では、皆さまからいただいた「ふるさと納税」をどのように使うのか説明をいただき、次に、NPOピースワンコに向かいました。

ピースワンコでは、現在約200頭の犬が飼育されています。ペットショップで残ってしまった犬や飼い主が飼えなくなった犬を引き取り、里親を探したり、災害救助犬に育てたりしています。

犬を引き取るとまず、伝染病などがないかどうかを調べます。そして、狂犬病などの予防接種をし、なるべくストレスの少ない環境を作り、ドッグトレーナーが里親にだしても大丈夫なように、犬の教育にあたります。

猫についても様々な意見交換をしました。神奈川県は、ボランティアの方々をはじめ、たくさんの方々にお支えいただき、犬、猫の殺処分がゼロという結果が出ています。しかしながら、現場の皆様の負担の重さについて、あらためて学びました。



NPOピースワンコにて

## この一年間を振り返って一決意あらたに、これからも神奈川のために！

平成27年4月に行われた統一地方選挙にて、港北区の皆様より16,999票のご支持をいただきました。地域への貢献を志しての初挑戦でしたが、こうして活躍の場を皆様より与えていただきましたことを、改めて感謝申し上げます。

神奈川県議会議員を拝命してから早いもので一年、「神奈川県を、もっと住みやすく、そして暮らしやすく」することをテーマに、神奈川県政と向き合って参りました。

平成27年第2回定例会、第3回定例会、そして平成28年第1回定例会が閉会しました。あらためてこの一年間を振り返り、日々の活動を通じて感じたこと、そして議会や県内のさまざまな場を通じて発見した様々な出来事を、この場をお借りしてご報告申し上げたく存じます。

私は神奈川県議会の一年生として、自由民主党神奈川県議団に所属して政務活動に取り組んで参りました。この自民党県議団という会派は単なる政策集団にとどまらず、どことなく体育会的な面を大事にしている。末席に加えていただき、そう感じました。

先輩後輩の面倒見、公人としての規律など、チームの一員としての基礎を徹底的に学びました。違う会派の質問や動きを観察していると、質問の厚みや掘り下げ方にもこういった面が表れるのを肌で感じました。神奈川県の皆様の安心・安全を守り、安定した政治を続けるためには、自民党県議団の体制が社会の現状に合っていると改めて感じております。

議員としての日々についてですが、当初は定例の議会が開催されていないときは、時間のゆとりが豊富にあると思っていました。浅はかな考えでした。じっくり考え、政策を練り上げていく。そんな余裕はありません、とにかくスピード、そして結果が求められます。

地域の方々との意見交換、様々な団体からの要望ヒヤリング、現場視察等、日程がすぐに埋まってしまう。また古い情報や資料では、議場での討論を戦うことができません。時代の変化に対応するため、常に最新の情報を入手しておかないと、県民の福祉の向上に結びつけることができません。

これまでは国会議員秘書として支える側の立場だったわけですが、自らがプレーヤーとなるのはこういう事なのだ実感しました。毎日が勉強です。

県議会選挙へ挑むに当たり、私は有権者の皆様へ三つの約束を掲げました。

一つめ「子育て支援の更なる充実」につきましては、新たな試みがこの4月からスタートいたします。子育ての基礎知識や母親のサポートなど、育児初心者の父親が求める情報を提供する「父子手帳」の作成を県が着手する事に決まりました。提案者として、私も全力で支援して参ります。

二つめの「雇用の安定」についても触れたいと思います。シニア世代の起業を県が支援する「人生100年の設計図」プロジェクトチームを今年度庁内に設置する意向が、黒岩知事の年初定例会見でも明らかになりました。65歳以上の雇用や求人に対するの質問を知事に行い、検討を求めたことが、こうした言質(げんち)に繋がってゆきます。止めるべきには遠慮なく「待った」をかけ、進めるべきは積極的にプッシュしていく。そういった姿勢は二年目以降も大事にして参ります。

三つめの「防災・防犯の街づくり」につきましては、自民党一丸となり、ラグビーW杯や2020年開催の五輪に向けての政策提言を加速させて参ります。平成28年度の予算では、県民の安心・安全を守るために800台の防犯カメラの設置を神奈川県が行うこととなりました。導入だけに留めず、そうした県の取り組みを積極的にPRすることで、神奈川県の実安全確保と安心の提供に努めて参ります。

あっという間の1年間でしたが、こうしてさまざまな「生活の現場」をつぶさに学び、議会の一員として行政に携わっていけることを何よりも有難く感じております。これからも初心を忘れることなく、皆様の負託にこたえることを誓い、この一年間の振り返りとさせていただきます。





